

### 3 性機能症状を主症状とする患者さんに役立つ漢方薬とは？

横浜新緑総合病院 泌尿器科

石川 公庸

男性性腺機能低下は性機能低下だけでなく、様々な身体症状や精神症状を呈します。男性性腺機能低下の患者様には主にテストステロン補充療法を行いますが、身体症状や精神症状の改善が不十分な場合や軽度男性性腺機能低下の患者様には漢方薬が有効です。ただし、漢方の処方是个々の体質・症状の見極めと経験が重要であり、初心者にとって容易なことではありません。

そこで、初心者の方でも実臨床で早速処方して頂けるようにいくつかの製剤を提案します。過去当研究会で取り上げられた製剤を優先的に提示します。

実証・中間証の患者様においてまず「桂枝茯苓丸」の処方を検討してください。診断のポイントとして瘀血の圧痛点を確認してください。

効果が不十分な場合や次にあげる症状が強い方には製剤の変更を検討してください。抑うつ・不眠・不安があり、胸脇苦満(季肋部～脇腹の膨満・圧迫感があり、抵抗と圧痛あり)、臍上悸(臍上に著明な拍動)のある方には「柴胡加竜骨牡蛎湯」を。まさに実証という印象の方で、のぼせ・イライラが強く、心下痞硬(心窩部が硬くつかえる感じ)・便秘の方には「三黄瀉心湯」を。同じくまさに実証という印象の方で、のぼせ・精神不安が強く、著明な少腹急結(S状結腸部や回盲部に圧痛あり)・便秘の方には「桃核承気湯」を考慮してください。

虚証の患者様においてまず「八味地黄丸」「補中益気湯」「柴胡桂枝乾姜湯」を挙げます。神経不安が少なく、臍下不仁(下腹部が軟弱無力・圧迫すると腹壁が容易に陥没)・少腹拘急があり、下半身機能低下が主な方には「八味地黄丸」を。神経不安や不眠・臍上悸や動悸がある方には「柴胡桂枝乾姜湯」を。神経不安がなく、消化器機能低下し四肢倦怠感が著しい方には「補中益気湯」の処方を検討してください。

効果が不十分な場合や次にあげる症状が強く出る方には製剤の変更を検討してください。神経不安がなく、消化器機能低下し四肢倦怠感が著しく「補中益気湯」を検討する方で、貧血や皮膚乾燥がある方には「十全大補湯」を。胸脇苦満はないが胃内停水音(みぞおちを軽く叩くとピチャピチャと音がする所見)・むくみ、下腹部抵抗・圧痛がある方には「当帰芍薬散」を考慮してください。

講演では各製剤の効能、構成生薬、薬効、診断のポイントを述べます。過去の当研究会で挙げられた製剤以外にも提案しております。処方経験がある先生には使用した印象・意見をご教示頂けると助かります。最後に、この提案は個人的な見解であり、患者様個々では合わないことがある点をご留意ください。

主な参考文献:

高山宏世編著:腹證図解漢方常用処方解説(新訂42版). 三考塾

谿忠人著:図表で見る現代医療の漢方製剤. 医薬ジャーナル社